



中村 善一

奈良工業高等専門学校 教務主事

皆さんは、奈良高専の学習・教育目標を知っていますか。

「学生生活のしおり」(平成23年度版)の1ページ目に、「平成16年4月の独立行政法人化に伴い、本校の教育理念である「創造の意欲」、「幅広い視野」、「自律と友愛」をベースに据えつつ、「国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した、実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てる」ことを、新しい時代に向けた本校の教育指針とした。これに基づいて、本科の学習・教育目標が定められた。」とあり、次の4つの学習・教育目標が明記されています。

- (1) 社会(伝統・文化・環境等)の発展に貢献できる、豊かな人間性を備えた技術者の育成
- (2) 幅広い工学的知識を基礎に、実践能力を備えた技術者の育成
- (3) コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
- (4) 自主的・継続的に学習し、課題解決能力を備えた技術者の育成

この学習・教育目標を達成するためには、学校と学生が協同する必要があります。

学校が行うべきことには、目標を達成するための「教育課程」の編成、教育課程以外の教育(補講や補習、課外活動、そして社会工場見学、特別講演会、高専祭などの学校行事等)、教育環境の整備(図書の実質、コンピュータ演習室の整備、コンピュータによる自学自習システムの導入等)などが挙げられます。最近の学校の取り組みには、平成22年度以降の入学者を対象とした教育課程の改訂、英語の補講、英語自学自習システムの入れ替え、TOEICスコア表彰制度の導入、4年生のシンガポールのポリテクニクへの派遣、奈良国立博物館のキャンパスメンバーズへの加入、学生チャレンジプロジェクトの実施などがあります。このように、学校は常に教育内容の見直しを行い、学習環

境の整備にも努めています。また、学生チャレンジプロジェクトやシンガポールへの派遣など、学生が積極的に活動できる機会を提供しています。

一方、学生の皆さんがやるべきことは何か。私は授業の中で、「口を開けてえさを待つように、答えを待ってはいけません。自ら考え手を動かして、答えを導き出さないと力をつかない。」旨の話をよくします。まずは、教育環境を最大限に活用し教育課程の内容を、自らが積極的に学習することです。学習・教育目標にある「自主的・継続的に学習し」という文言が、まさに学生の皆さんに求められています。これをおろそかにして、目標の達成はあり得ないと断言できます。

自主的な学習の身近な例を挙げてみます。皆さんは、授業がわからないとき、問題が解けないとき、どうしますか? 参考書や問題集を見る。友達や先輩に聞く。先生に質問する。いろいろな方法がありますが、自分に合った解決方法を持っていますか?

参考書や問題集は持っていないし、自分にあったものを探すとはめんどくさい。友達や先輩に聞くのも恥ずかしいし、先生に聞きに行けば「こんなこともわからないのか」と怒られそうだとすると、わからないままになってしまいます。この状態を放置すると、教科内容が理解できなくなり、学習意欲が失われるという結果をまねきます。そうならないためには、状況に応じて自身が主体的に考え行動することが必要です。

わからないことがあれば、まず自分で調べてみる。それでもわからなければ、友達や先輩に聞く。それでもわからなければ、先生に聞く。簡単なようで、これがなかなかできないのが現実ではないでしょうか。是非、勇気を出して最後は先生を頼って下さい。わからないことがわかる、解けない問題が解けるという体験を繰り返すことができれば、すなわち継続的に学習できれば、教科に対する自信も湧いてきます。こうなるとしめたもので、教科に対する興味が増し、授業で習うこと以上のことを自身で勉強しようと、意欲が高まってきます。

こんなにうまくいくはずはないと思われるかもしれませんが、しかし、誰のために勉強するのかと問われれば、自分のためであると答えると思います。自分に力をつけるために、是非、自主的・継続的に学習して欲しいと願っています。

奈良高専の学習・教育目標を達成するためには、学校と学生が協同する必要があります。学生の皆さんには、自主的・継続的に学習することを強く求めました。学校は学習・教育目標が達成できるよう、常に教育内容の見直しを行い、学習環境の整備に努める必要があります。そして、私自身、すなわち教員も自主的・継続的に学習し、学習・教育目標に掲げた「豊かな人間性」「実践能力」「コミュニケーション力と国際性」「課題解決能力」を高めて行き、学生の目標となれるよう努力していく必要があると思っています。

学生の皆さん、学習・教育目標に近づけるよう、力を合わせて頑張ってください。